

説明的な文章における論理構造の系統と指導時期

説明的な文章の解釈に関する指導事項	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
主語	述語に対応する主語	形式段落の主語 問いの主語と 答えの主語				
段落		形式段落	意味段落			
問いと答え	問い・答え	詳しい答え まとめの答え	段落にかかる問い 全体にかかる問い かくれた問い		事例にかかわる問い 要旨にかかわる問い	
段落相互の関係	問い・答え	まとめ	話題提示 事例とまとめ 具体と抽象 調べたことと分かったこと	まとめと主張	まとめから事例	意見と根拠
事例	並列(順序)		分類	比	較	
引用要点要約	表		中心となる語句 中心となる文 小見出し 要点	要約	要旨	
意図効果	事例の順序	三段構成	話題・事例	図・写真	表・グラフ・数値	目的や必要に応じた説明
文章構成		初め・中・終わり	文章構成図	頭・双・尾括型	序論・本論・結論	
表現技法	つなぎ言葉	順序理由 まとめ 順並添	逆接 接換	例対補 示比足		
	こぼれ言葉					
	文末表現	間呼び 断理	いかけ 定由	伝推希	間重望 事意見	
その他				定義づけ		
資料活用	絵・写真 分かったことや 思ったことを書く	表・数値 自分の知っている こととつなげて読 み、自分の考えを 書く。	実験や観察など、 調べたことを、 例を挙げて書く。	興味をもった内容 を要約し、紹介文 を書く。 組み立てに気を付 けて、事実と意見 を区別して書く。	年号・地図・グラフ 新	事例や資料の意図 を考えながら読 み、筆者の意見に 共感するところ、 疑問に思うところ をまとめる。

「できたねポイント」一覧表

低学年	中学年	高学年
1 問いの文を見つけよう	7 まとまり(段落)をとらえよう	18 要旨をとらえよう
2 答えの文を見つけよう	8 中心となる語句や文を見つけよう	19 事実と意見の関係をとりえよう
3 順序を表す言葉を見つけよう	9 要点をまとめよう	20 意見と根拠をとらえよう
4 理由を表す言葉を見つけよう	10 話題をとらえよう	
5 まとめの答えを見つけよう	11 事例を見つけよう	
6 組み立て(初め・中・終わり)をとらえよう	12 段落にかかる問いを見つけよう	
	13 全体にかかる問いを見つけよう	
	14 文章構成をとらえよう	
	15 事実を見つけよう	
	16 意見を見つけよう	
	17 つなぎ言葉を見つけよう	

# できたねポイント0



# 使い方を知ろう(先生用)

★ とは…学習用語の定義をしています。

のしげどいじろ…着眼点や手順を示しています。  
評価規準として活用できます。

- ① 主教材を読む活動を通して得た知識や、分かったことを書き加えていくことにより、身に付ける力を自覚させます。(朱書き部分)
  - ② 活動のために、あらかじめ与えておきたい知識については、印刷しておいてもよいと思いますが、スキル的に用いるのではなく、言語活動の中で児童に獲得させていくようにします。
  - ③ 副教材を読む活動に取り組ませることにより、身に付いた力を活用させます。その際、身に付いた力を可視化させることも、ヒントカードとして活用できます。
- 振り返りの際には、ポイント欄に印を付けることで、力が身に付いたことを認め、児童にも自覚させます。また、児童が自主的に選んで活用した、既習のできたねポイントにも印を付け、評価します。このようにしたことを繰り返すことにより、児童が、既習事項を活用するようになっていきます。また、論理構造を読む視点を意識できるようになります。
- 分かったこと・気付いたことを記入します。

* 指導のポイントを示しています。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入時に、学習する単元の教材名を記入します。振り返りの際に、「できたね！」とポイント欄に印を付け、評価します。</li> <li>・ 学習する単元で使う「できたねポイント」以外に、児童が自主的に活用した、既習の「できたねポイント」にも、教材名を記入させ、ポイント欄に印を付け、児童の主体的な読みを認めていきます。</li> <li>・ 一つの文章には、たくさんの指導内容が含まれています。本単元で身に付けさせる力を明確にすること、また焦点を絞ることが大切です。</li> <li>・ 国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習して、能力の定着を図ることを基本としています。一つの「できたねポイント」を、一度、指導して終わりにするのではなく、既習事項として活用しながら、段階を上げて指導していく必要があります。そのため、複数学年に渡った内容が記入されています。</li> </ul>		<p>題 名</p>	<p>ポイント</p>

# できたねポイント0



# 目次

<b>1</b>	を見つけよう	
<b>2</b>	を見つけよう	
<b>3</b>	を見つけよう	
<b>4</b>	を見つけよう	
<b>5</b>	を見つけよう	 1/2年生
<b>6</b>	をとらえよう	
<b>7</b>	をとらえよう	
<b>8</b>	を見つけよう	
<b>9</b>	をまとめよう	
<b>10</b>	をとらえよう	
<b>11</b>	を見つけよう	
<b>12</b>	を見つけよう	
<b>13</b>	を見つけよう	
<b>14</b>	をとらえよう	
<b>15</b>	を見つけよう	
<b>16</b>	を見つけよう	
<b>17</b>	を見つけよう	3/4年生
<b>18</b>	をとらえよう	
<b>19</b>	をとらえよう	
<b>20</b>	をとらえよう	

# できたねポイントカード



教材文1つにつき 1ポイントゲット

36ポイントで 名人 級  
102ポイントで 達人 級  
120ポイントで 超人 級

めざせ！  
超人

名前

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20



# できたねポイント1



のんぷんじゅん

① 文のはじめの表現ひつじげん

② 文の終わりの表現お

★ 問の文は...

# 問の文を見つけてみよう

						題 <small>だい</small>
						名 <small>めい</small>
						ポイント

# 答の文を見つけてみる



ご質問

① 問の文も聞きます

いつか。 ↓ 時を表す言葉を見付ける  
 どうですか。 ↓ 場所を表す言葉を見付ける  
 なぜか。 ↓ 理由を表す言葉を見付ける

② 問の文の終わりの表現

例例例  
 なんの足でしょう。 ↓ の足です。  
 できるのでしょうか。 ↓ できるSkuta.  
 どうにもすすのしょうか。 ↓ すすSkuta.

③ 問の文のキーワードの言葉やそれにつながる言葉

例  
 問の文の主語 と 答の文の主語 は同じ  
 例  
 どんな楽しみ方がありますか。 ↓ 楽しみ方・楽しさ

④ まよめ言葉

・ I Skuta! ・ I Skuta!

⑤ はいの言い切る言い方

・ Skuta. ・ Skuta.

## できたねポイント2

題	名	ポイント

# できたねポイント2



## 答の文を見つけてみよう

のこたえのぶんをみつけてみよう

① 問の文を聞くとき

② 問の文の終わりの表現

③ 問の文に使う言葉やそれにちながる言葉

④ まとめ言葉

① はいきれいな言い切る言い方

題名	ポイント

# できたねポイント3



## 順序を表す言葉を見つけてみよう

★ 順序とは…物や事柄の並び方のしぐら

① 順序を表す言葉

まず はじめに  
 一つは 二つめ  
 一つは もう一つは  
 しばらくすると  
 今度は 今度は  
 したばかり  
 した後に  
 前回  
 同時に  
 今回  
 次回  
 など

②

時間や季節を表す言葉

前年 去年 今年 来年 先月  
 今月 来月 きのう 今日 明日  
 朝 昼 夕 月 午後 時  
 午前 午後  
 (秋)の終わり (春)のはじめ (夏)の中ごろ  
 (冬)の間

③

年

明治時代には 昭和に入ると 二〇一四年

段落始めに出てきた「順序を表す言葉」に、印を付けながら読むと、段落のまとめやつながりが分かりやすい。  
 どのような順序で説明しているか考えながら読む。  
 順序を表す言葉がないときもある。

<p>* 順序を表す言葉を見つけたら、その都度、書き加えていくことで意識させるとよい。</p> <p>* 時間の順序のほかに、以下のものがある。</p> <p>ア 事物の作り方の手順など文章に取り上げられた話題自体に内在する事柄の順序</p> <p>イ どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序</p> <p>イは低学年後半で学習し、その後の、文章の組み立てや事例の学習につながっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭でおおよそを述べてから具体的な内容を説明する</li> <li>どんな順序で例を挙げ、説明しているかを捉える(季節・大きさ・重さ・遠さなど)</li> </ul>	<p>題</p> <p>名</p>
<p>ポイント</p>	<p>ポイント</p>

# できたねポイント3



## 順序を表す言葉を見つけてみよう

- ★ 順序とは…  
 のしきじり  
 ① 順序を表す言葉

② 時間や季節を表す言葉

③ 年号

						題
						名
						ポイント

# できたねポイント4



## 理由を表す言葉を見つけて

★ 理由とは…わけ。なぜ、そうなったのか。原因や要因。

① 文のはじめの表現

なぜなら、理由。  
 どうしてかという、理由。  
 そのわけは、理由。

② 文の中での表現

理由。ですから、。  
 理由。そのため、。  
 理由から、。  
 理由というわけ、  
 理由ので、  
 理由ため、

③ 文の終わりの表現

理由からです。  
 理由のです。

④ 理由の効果  
 説明が分かりやすくなる。  
 説得力がある。

原因と結果(理由と帰結)を整理しながら読むと、文と文の関係や、段落と段落の関係を捉えることができます。

題	名	ポイント

# できたねポイント4



## 理由を表す言葉を見つけてみる

★ 理由とは…

- ① 文のはじめの表現  
 のしきいん  
 ぶんのはじめのひょうげん

- ② 文の途中の表現  
 ちゆう

- ③ 文の終わりの表現  
 お

- ④ 理由の効果  
 こうか

						題 だい
						名 めい
						ポイント

# まよめる答コンを思いついたら



★ まよめる答コンとは… **筆者の伝えたいこと**。

のこたえに

① まよめる言葉

・ まよめること  
・ 思いついたらから  
・ まよめること  
・ 思いついたらから

② はじめの思いつき

・ さがす。 ・ さがす。

③ 書くところ

・ 題名に関すること ・ 問いの文に関すること

・ 筆者の考え

④ 書いてある場所

・ 文章の終わり  
・ 文章のはじめと終わりの間

・ 説明文には、詳しい答えと、それをまとめた答えがあることが多い。

## できたねポイント5

題	名	ポイント
<p>* 強い印象を与えるために、「ところが」や「しかし」など、逆接のつなぎ言葉を使ってまとめることもある。 * 低学年段階では、筆者の伝えたいことであるが、中・高学年段階で考えるとところの事例のまとめに当たる。</p>		

# できたねポイント5



## まじめの答を聞きかた

★ まじめの答を聞きかた...

まじめの答

① まじめの答を聞きかた

② まじめの答を聞きかた

③ まじめの答を聞きかた

④ 書いてある場所

題名	ポイント

# できたねポイント6



## 組み立て型をしよう

★ 組み立てとは…文章や文章のまとまりが、どのようにつな  
がっているかをみること。

- ① 問いの文や話題提示の文
- ② 答えの文やまとめた答え
- ③ 事例(事実)
- ④ 筆者の考え(意見)

お 終 わ り	な か 中	は じ め
ま と め	答 え ( わ け 説 明 )	話 題 提 示  問 い

終 わ り	中	は じ め
事 例 の ま と め ( ま と め の 答 え )	事 例 ① 事 例 ② ( 詳 しい 答 え )	話 題 提 示  問 い

終 わ り	中	は じ め
主 張 の ま と め	事 例 ② 問 い の 答 え	事 例 ① 問 い の 答 え

結 論	本 論	序 論
主 張 の ま と め ( 要 旨 )	事 例 ① 事 例 ② の ま と め	話 題 提 示  問 い

・はじめに説明したいことを書いて、その後、詳しい説明を  
書いている文章がある。

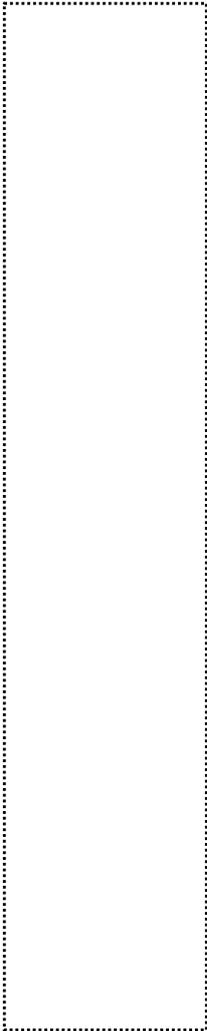
\* 上の表は尾括型の例である。  
\* 低学年から頭・双括型が出てくる場合もある。  
\* 中・高学年になると主張が入る。そのため、事例のま  
とめが「中・本論」に入ることも出てくる。内容で判断する。

題

名

ポイント

# できたねポイント6



お 終わり	なか 中	はじめ

終わり	中	はじめ

終わり	中	はじめ




★ 組み立てとは…

③ ① のじやうじゆん  
問いの文とぶん

④ ② 答への文やまよひめのかえり  
こた

## 組み立てのしくみ

						題 だい
						名 めい
						ポイント

# できたねポイント7

## ★「まじまり」とは…文章で「だいたい同じ」で「同じ」で書かれて の「まじり」は「まじり」で書かれて 「まじり」で書かれて

- ① 文章の形を「まじり」で書かれて → 形式段落  
 ・文章の中で「一字下がつた」ところから、次の「一字下がつた」ところまでが「一つのまじり」。
- ② 文章の内容を「まじり」で書かれて → 意味段落  
 ・「だいたい同じ」といって書かれた形式段落が、いくつか集まって「まじり」で書かれてきた。
- ③ 意味段落を「まじり」で書かれて → 文章を三つの「まじり」に分ける。

これは「一つの例」

- ・ 問の書かれた段落を見つけたら…はじめ
- ・ 答えや筆者の考えの書かれた段落を見つけたら…終わら
- ・ 問と答えの間の段落…中
- 「中」のまじりをさらに細かく分ける。
- 形式段落の内容を「まじり」で書かれてきた。

### 「まじり」のポイント

- ・ 形式段落の主語 「何について書かれているのかが分かる。」
- ・ 形式段落の中心となる文 → 小見出しをつけても分かりやすい。
- 「だいたい同じ」といって書かれている形式段落どうしを「まじり」で書かれてきた。
- 形式段落は「まじり」で書かれてきた。
- 形式段落は「まじり」で書かれてきた。

### 「まじり」のポイント

- ・ 順序を表す言葉
- ・ 例を挙げる言葉…「たぶん」「もしかしたら」「たぶん」「たぶん」
- ・ 話をまとめる言葉…「まとめ」「おしまい」「おしまい」
- ・ 問いがいくつかある「まじり」は「まじり」で書かれてきた。
- ・ 「一つの意味段落」となる。

題名	ポイント
<p>* 形式段落の主語を見付けさせるには、述語に対応する主語を把握させるようにする。 「～したのは誰？」</p>	

# ★のつけまどまりとは... まじりまじり(段落)をひらいてみる

① 文章の形でひらける → 形式段落

② 文章の内容でひらける → 意味段落

③ 意味段落をとらえるには...  
文章を三つのまじりに分ける。

・ 問いの書かれた段落を見つけたら... はじめ

・ 答えや筆者の考えの書かれた段落を見つけたら... 終わら

・ 問いと答えの間の段落... 中

イ 「中」のまじりをさらに細かく分ける。

○ 形式段落の内容をとらえる。

・ 形式段落の主語 「何について書かれているのかが分かる。

・ くり返し出てくる言葉

・ 形式段落の中心となる文 ↓ 小見出しをつけても分かりやすい。

○ だいたい同じことについて書かれている形式段落というしを「まじり」にして「この意味段落とする。

ウ 段落ははじめのしなび言葉に着目して、段落ごとの関係

をひらける。

できたねポイント3

- ・ 順序を表す言葉
- ・ 例を挙げるしなび言葉...
- ・ 話をまとめるしなび言葉...

これは一つの例

題名	ポイント

# できたねポイント8



## 中心となる語句や文を見つけてみよう

のしやいん

★ 中心となる語句とは…

文章を読むとき、手掛かりとなる言葉。キーワード。

① 題名に出てくる言葉や それにつながる言葉

② 問いの文に出てくる言葉や それにつながる言葉

③ くり返しに出てくる言葉

★ ④ 形式段落の主語

中心となる文とは…

文章の中で、筆者の伝えたいことがまとめられている文章。中心文。

⑤ 文章の組み立て方を見つけてみよう

はじめ	問いの文 ・ 読み手へ投げかける文
中	まとめの文 ・ 中心となる語句がある文
終わりの	まとめの文 ・ 筆者の意見が書かれた文

⑥ 小さな言葉に目を付けて見つけてみよう

ア 順序を表す言葉がある文…**できたねポイント**

イ まとめ言葉がある文…「のよび」「まじり」「だかばり」

ウ 前のことを打ち消す言葉がある文…「しかし」「でも」「けれども」

文章の大事なところが分かるように、まとめることが出来る。

<p>* 要点指導の基本となる。 * 中心となる文を短くまとめるときは、まず、主語と述語をしっかりと押さえ、修飾語は、意味が分かる程度に短くする。</p>						題
						名
						ポイント

# できたねポイント8



## 中心となる語句や文を見つけてみる

★中心となる語句や文…

- ① 題名に用いている言葉やそれにつながる言葉
- ② 問いの文に用いている言葉やそれにつながる言葉
- ③ くり返しに用いている言葉
- ④ 形式段落の主語
- ★ 中心となる文や文…

⑤ 文章の組み立てに用いている

はじめ	問いの文 ・ 読み手へ投げかける文
中	まとめの文 ・ 中心となる語句がある文
終わり	まとめの文 ・ 筆者の意見が書かれた文

⑥ 小さな言葉に目を付けて見つけてみる

- ア 順序を表す言葉がある文…**できたねポイント**
- イ まとめの言葉がある文…
- ウ 前のことを打ち消す言葉がある文…

題名	ポイント

# できたねポイント9



## ★ 要 点 を ま と め り

★ 要点とは…文章の大事なところ

のしやいん

- ① 中心となる語句
- ② 中心となる文
- ③ 形式段落の要点をまとめよう

できたねポイント

ア 形式段落の中心となる文を見つけろ。

イ 中心となる文を短くまとめる。



④ 意味段落の要点をまとめよう

ア (形式段落ごと)に中心となる語句や文を見つけろ。

イ それらをつないで短くまとめろ。

・ 中心となる文をつなげるときに指示語があったら、それが指している言葉におきかえてまとめろ。

<p>* 要約とは、目的や必要に応じて文章を短くまとめることである。要点をまとめることは、その基礎となる。</p> <p>* 意味段落を捉えた後、小見出し(意味段落の題名のようなもの)を付けると、文章全体を大まかに読むことができる。また文章の組み立ても捉えやすくなる。</p>							題
							名
							ポイント

# できたねポイント9



## ★ 要 点 を ま と め り ま す

★ 要点とは…

のしやいん

- ① 中心となる語句
- ② 中心となる文
- ③ 形式段落の要点をまとめよう

できたねポイント

ア 形式段落の中心となる文を見つけろ。  
 イ 中心となる文を短くまとめろ。

- ④ 意味段落の要点をまとめよう
- ア (形式段落ごと)に中心となる語句や文を見つけろ。  
 イ それらをつないで短くまとめろ。

題 名		ポイント

# 話題を引くために

★話題とは…文章の内容となる事柄



★話題提示文とは…これから説明する<sup>こと</sup>を示した文

① 話題を引いていへる言葉やそれについてながる言葉が<sup>出</sup>てくる文

② 言う切りの文

例 ① 「まを<sup>まを</sup>回して遊ばいよは、むか<sup>むか</sup>しから世界中<sup>世界中</sup>で行わ<sup>て</sup>てきました<sup>た</sup>。」  
 「<sup>ま</sup>を<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

③ 投げかけている文

例 ② 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>。」  
 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

④ 問いかけている文 + 言い切りの文 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

例 ③ 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>。」  
 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

⑤ 問いかけている文 + 答え<sup>て</sup>いる文 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

例 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>。」  
 「<sup>まを</sup>楽しんで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>」(光村)

- ・ 問いの文(問題提起)は、読んでいくと答えが分かる。
- ・ 話題提示の問いの文は、すぐに答えが書いてある。または、答えを求めていない。
- ・ 投げ掛けたり、問い掛けたりする<sup>こと</sup>の効果
- ・ 興味を誘い、積極的<sup>に</sup>読んで<sup>ま</sup>遊ばいよ<sup>ま</sup>。
- ・ 経験を呼び起<sup>して</sup>、内容を身近<sup>に</sup>感じ<sup>て</sup>かせ<sup>ん</sup>。

## できたねポイント10

題	名	ポイント

# できたねポイント10

⑤ 問いかけてくる文 + 答えてくる文

④ 問<sup>と</sup>いかけてくる文 + 言い切る文

③ 投げかけてくる文

② 言い切る文



★ のつ けじやう  
★ 話<sup>わ</sup>題<sup>だい</sup>提<sup>てい</sup>示<sup>し</sup>文<sup>ぶん</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>…

① 題<sup>だい</sup>名<sup>めい</sup>に<sup>に</sup>由<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>言<sup>ごん</sup>葉<sup>は</sup>や<sup>や</sup>そ<sup>そ</sup>ね<sup>ね</sup>に<sup>に</sup>し<sup>し</sup>な<sup>な</sup>が<sup>が</sup>る<sup>る</sup>言<sup>ごん</sup>葉<sup>は</sup>が<sup>が</sup>由<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>文<sup>ぶん</sup>

★ 話<sup>わ</sup>題<sup>だい</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>な<sup>な</sup>が<sup>が</sup>る<sup>る</sup>言<sup>ごん</sup>葉<sup>は</sup>に<sup>に</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>文<sup>ぶん</sup>

						題 <sup>だい</sup>	名 <sup>めい</sup>	ポイント

# できたねポイント11



## 事例を見つけよう

のしやえいん

★事例とは… 物事を知らせたり、考えを述べたりするしきい、紹介する **具体的な** 出来事の例

- ① 書いてある内容
- 事実
  - 実験
  - 観察
  - 調べたこと
  - など

② 目印しめしになる言葉…事例の数にも気をつけて読もう。

- まず
- 一つめ
  - 二つめ
  - 三つめ
  - もしも
  - 最後に
  - 三つめ
- 例えば

③ 事例のまとめ…具体的な例を挙げた後に、まとめがある。

- このように
- つまり
  - こうしたこと
  - から
  - ようするに
- など

事例
事例
事例
まとめ

事例
事例
まとめ
まとめ

④ 事例と事例のつながり方

同じような例を並べる。「言葉で遊ぶ」(光村)「図画」(学図)「ちがう例をあげる」。「大きな力を出す」(光村)「文眼」(動物たち)「学図」(学図)「発てんしていく」。「ありの行列」(光村)「ムササビのひみつ」(学図)「学図」(学図)

⑤ 事例とまとめ

事例とまとめには、共通の、中心となる語句が表れる。

⑥ 事例の効果・役割

説明が分かりやすくなる。  
筆者の主張の根拠となる。  
説得力が増す。

<p>* 「事例」を扱うのは中学年からであるが、低学年のうちから、文章の中には当然出てくる。初めて「事例」について知る時には、①②③が分かればよく、また、「低学年で学習したあの文章にも事例があった」ということが分かればよいだろう。</p> <p>「事例」についての学習が進む中で④⑤について扱っていくが、④は一度に押さえる必要は無く、学習した教材文の組み立てを、その都度書き加えていくとよい。また、それによる効果についても⑥に書き加えていけるとよいだろう。</p>		題
		名
		ポイント

# できたねポイント11



## ★事例

を見つけよう

のしやえいじ

事例とは…

① 書いてある内容

事例と事例のつながり方

② 目印になる言葉…事例

③ 事例のまとめ…具体的な例を挙げた後に、まとめがある。



④ 事例と事例のつながり方

⑤ 事例とまとめ

⑥ 事例の効果・役割

						題
						名
						ポイント

# できたねポイント12



## 段落にかかると問いつけよう

★ 段落にかかると問いつけよう  
 事例の書かれた段落にかかると問いつけよう。  
 筆者が、自分の主張を説明するため  
 に取り上げた事例に関わる問い。

- ① 問いの内容
- ② 事例に関する内容  
 具体的な内容  
 問いの答え  
 具体的な答え
- ③ 筆者の主張の根拠  
 問いと答えの書いてある場所  
 詳しい答え

低・中学年

低・中学年

高学年

まとめ	事 例	
お 終わり	中	はじめ
ま と め	答 え る 段 落 に か か る 問 い の か か	答 え る 段 落 に か か る 問 い の か か

まとめ	事 例	事 例
お 終わり	中	はじめ
ま と め の 答 え ( 結 び )	答 え る 段 落 に か か る 問 い と か か	答 え る 段 落 に か か る 問 い と か か

要 旨	事 例	問題提起
け つ 論	本 論	し ょ ろ ん 論
主 張	答 え る 段 落 に か か る 問 い と か か ( 根 拠 )	話 題 提 示

\* 低学年の説明文は、問いと答えで組み立てられた、主張のない、事例のみの文章である。故に、問いの答えが、そのまま、まとめになる。そのため、段落にかかると問いつけよう、「できたねポイント13」でいう「全体にかかると問いつけよう」のように見える。  
 中学年になると「事例(問い+答え)+まとめ+ちよつとした主張(結び)」の文章が出てくるが、これも、基本的には、「事例とまとめ」で組み立てられた文章と考えてよい。  
 高学年になると文章に主張が入る。そのため、低・中学年のときのように、問いの答えが、そのまま、まとめになるといった読み方をしていると、問いとまとめ・主張がねじれることがある。これは、その問いが、段落にかかると、事例レベルの問いであることと、まとめの答えに呼応するはずの「全体にかかると問いつけよう」が文章の中にあることから起こる。これらのことを理解しないと文章構成を捉えられない児童も出てくる。尚、段落にかかると問いつけようの答え(事例)が主張の根拠になることを学習するのは、4年生以降の事実と意見を整理して読む学習からである。

題

名

ポイント

# できたねポイント12



## 段落にががの問を見つけてみよう

★ 段落にががの問ごうは...

のしやいん

① 問ごのちぢ

② 問ごのちぢ

③ 問ごちぢのちぢてある場所

低・中学年

低・中学年

高学年

お 終わり	中	はじめ

終わり	中	はじめ

けつ 結論	本論	じょ 序論

							題
							名
							ポイント

# 全体にかかると問うて見つけよう



★ 全体にかかると問うとは…  
 文章全体にかかると問う。  
 筆者の主張に関わる問う。  
 大きな問う。中心となる問う。

## できたねポイント13

- ① 問うの内容
  - ・ 題名につながる内容
  - ・ 筆者の伝えたいことに関する内容
- ② 問うの答え
  - ・ 筆者の伝えたいこと
- ③ 問うと答えるの書いてある場所
  - ・ 問うと答えるがねじれていないとき
  - ・ または問うがないとき
- ④ 題名から問うを作ってみる。



おわり	なか	はじめ
主張 ⇔ 要旨	段落にかかると問うと答える (根拠)	問う (示されない) ことも多い
問うの答え	問うと答える	全体にかかると問う

問うと答える(主張)がねじれていなければ、全体にかかると問う。  
 全体にかかると問うと段落にかかると問うの両方があることもある。どの問うが全体にかかると問うのか考えながら読む。  
 要旨を捉えるときに活用できる。

\* 「問うの文」を示すことによって、読み手の意識をひきつけると同時に、これから説明することを端的に示すことができるため、「問うの文」は、低・中学年の文章に多用される。しかし、学年が上がるにつれ、双括型の文章が増えたり、話題提示の文章の中で問題を提起したりし、「問うの文」が示されないことが多くなる。そのため、上記のような全体にかかると問うがはっきり示された文章は少ない。そこから起こる、問うとまとめのねじれについては、「できたねポイント12」に記載したとおりである。

\* 高学年になると、「事実と意見(筆者の意見に対する根拠を捉える)」の学習で、文章を終わってから読む読み方もできる。同様に、題名や筆者の主張の文章と比べたときに、どの問うが、全体にかかると問うになるのかを考えさせるとよい。(『動物の「言葉」 人間の「言葉」』(三省堂5年生)) また、全体にかかると問うがない場合には、自分で作ってみるとよい。

題

名

ポイント

# 全体にかかるとの問いを見つけてみよう



★ 全体にかかるとの問いとは…

のしやいん

① 問いの内容

② 問いの答え

③ 問いと答えの書いてある場所

④ 問いと答えがねじれてくるよき  
または問いがないよき



おわり	なか	はじめ
問いの答え		問い 全体にかかるとの

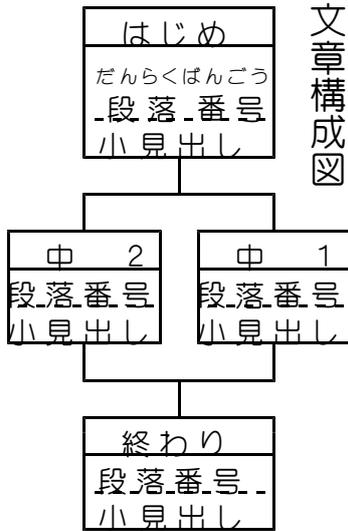
## できたねポイント13

						題
						名
						ポイント

# できたねポイント14



## 文章構成をひもとく



文章構成表

お 終 わ り	中	は じ め
ま と め	事 例 ② 事 例 ①	問 と い 話 題 提 示

文章構成図にすると、段落と段落の関係や、大きなまとまりのつながり方も分かりやすく示せる。

①

できたねポイント6

★文章構成とは…文章や文章のまとまりがどのように組み立てられているかということ  
★文章構成表とは…文章がどのような構成になっているかを表や図の形で示したものをひもとく

結 論	本 論	序 論	尾 括 型
主 張			

け つ 結 論	本 論	じ よ ろ ん 序 論	頭 括 型
		主 張	

文章の大体の内容を知るには、はじめと終わりを読めばよいことが分かる。

結 論	本 論	序 論	双 括 型
主 張		主 張	

②

筆者の主張の位置

\* 全文シートの意味段落の上に見出しを付けるだけでも、文章構成が捉えられる。  
\* 文章構成図は、段落相互の関係を理解させるために活用することができる。段落番号のみではなく、小見出しを付けて作成するとよい。(学図では4年生に出てくるが、光村では表のみで出てこない。)

題

名

ポイント

# できたねポイント14



## 文章構成をいじるといい

★ 文章構成とは…

★ 文章構成表とは…

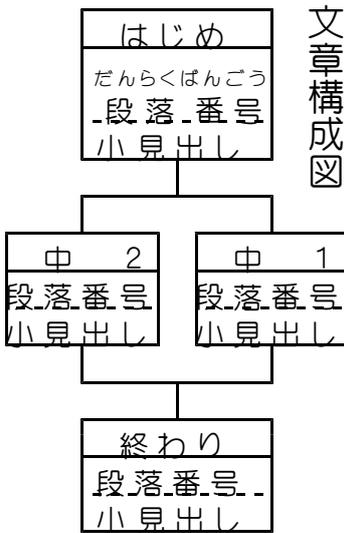
①

できたねポイントの

文章構成表

お 終 わり	中	は じ め
ま と め	事 例 ② 事 例 ①	問 と 話 題 提 示 い

文章構成図



頭括型

②

筆者の主張の位置

けつ 結 論	本 論	じょろん 序 論

尾括型

結 論	本 論	序 論

双括型

結 論	本 論	序 論



						題 名
						ポイント

# できたねポイント15



## 事実を見つけてみよう

★ 事実とは…

……  
 実際に起こったこと  
 現実の出来事  
 科学的な事実  
 社会的・歴史的事実  
 自分が直接経験した事実  
 見聞きしたり、読んで知り得た間接的な事実

のポイント

① 文末表現

……  
 ……  
 ……  
 ……

② 文章の内容

……  
 ……  
 ……  
 ……

……  
 ……  
 ……  
 ……  
 ……  
 ……

……  
 ……  
 ……

……  
 ……  
 ……

題	名	ポイント

# できたねポイント15



## 事実を見つけたら

★ 事実とは…

のしやいん

① 文末表現

② 文章の内容

						題
						名
						ポイント



# できたねポイント16



## 意見を見つけよう

★ 意見とは…

のつけぎころ

- ① 文末表現まつひょうげん

- ② 文末以外の表現

- ③ つなぎ言葉ば

- ④ 文章構成ぶんしょうこうせい

- ⑤ 事実と意見の関係じじつ かんけい

できたねポイント14

						題 <small>だい</small>
						名 <small>めい</small>
						ポイント



# しななれ言葉を見つけてみる

★ しななれ言葉とは... 語と語、文と文、段落と段落をつなぐ働きをする言葉

## のしなれ言葉

- ① 前の事ながら原因・理由となり、その当然の結果が続くとき  
思ったとおりー予想とおりー

だから  
すると  
したがって

そのため  
そのため  
そのため

（順接）

- ② 前の事ながら予想される結果とはちがうことが続くとき  
予想とちがう！

しかし  
ところが

だが  
だけども

けれども  
（逆接）

- ③ 前の事ながらまとめられ

つまり  
よ

すなわち  
（ついでに）

- ④ 前の事がら追加される（またそれにしてしかも）

説明するときに（なぜならたとえば）  
（またそれにしてしかも）

- ⑤ 説明するときに（なぜなら）一方、おやへて反対にそれとも

比入るときに（あるいは）  
（一方、おやへて反対にそれとも）

- ⑥ 話題を変えるとき（おしよ）  
（おしよ）

話題を変えるとき（おしよ）  
（おしよ）

- ⑦ 特定の段落はじめてのしななれ言葉は題キエツク。

題	名	ポイント

# できたねポイント17



## しなげれいしんばく を見つけよう

のしんぶん

- ① 前の事ことが原因げんいん・理由りゆうとなり、その当然とうぜんの結果けっかが続つづくととき思おもったとあらう・予想よそうどあらう！

- ② 前の事ことがらから予想よそうされる結果けっかとはちがうことが続つづくととき予想よそうどちがう！

- ③ 前の事ことがらをまよめんとし

- ④ 前の事ことがらして加くわえんとし

- ⑤ 説明せつめいするんとし

- ⑥ 比ひべんとし

- ⑦ 話題たいを交かえんとし

						題 <small>だい</small>	名 <small>めい</small>	ポイント

# できたねポイント18



## 要旨

★ 要旨とは…文章の内容や、筆者の考えの中心となる事柄。伝えたい事実と主張。

のしぼり

① 文章構成

- ・ 頭括型
- ・ 双括型
- ・ 尾括型

② 文章の内容

- ・ 具体的な例ではなく、まとめられている部分。
- ・ 事例のまとめとそれに対する筆者の意見

③ 事実(事例) — 意見(主張)のつながり

- ・ どんな事実(事例)を取り上げて、何を主張しているのか。

④ 要旨のまとめ方

- ・ 全体のまとめの段落(事例のまとめの段落)と、筆者の主張のある段落の、中心となる語句を使ってまとめる。

題	名	ポイント

# できたねポイント18



## 要旨をひらきだす

★ 要旨とは…

のしぼり

① 文章構成

② 文章の内容

③ 事実(事例) — 意見(主張)のつながり

④ 要旨のまとめ方

						題
						名
						ポイント

# 事実と意見の関係をついじつに

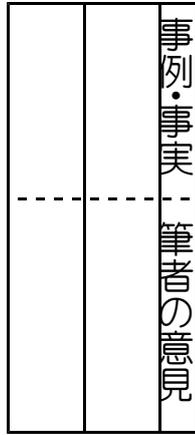
## (事例と要旨)



- のついでに
- ① 事実と意見を読み分けよう

### できたねポイント15

- ② 事例ごとに、事実と筆者の意見との関係をおさえよう



- ③ 筆者の意図を考えよう

ア なぜ、その事実(事例)を取り上げたのか  
 イ なぜ、その順序で述べたのか

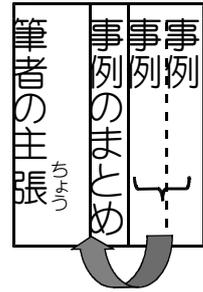
- ・ 自分の意見の理由
- ・ 根拠
- ・ よりどころとするため
- ・ 読み手を納得させるため
- ・ 説得力を増すため

- ④ 事実と意見(事例と要旨)の関係は...

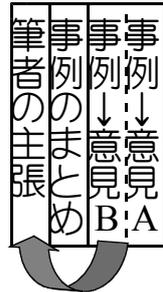
- ・ 事実が意見の理由
- ・ 根拠になっている
- ・ 共通の、中心となる語句が表れる

### できたねポイント11 16

低・中学年の例



中・高学年の例



中・高学年の例



題	名	ポイント

# 事実と意見の関係をついよんてい

## (事例と要旨)



のしげいん

① 事実と意見を読み分けよう

できたねポイント15 16

② 事例ごとに、事実と筆者の意見との関係をおさえよう

	事例・事実…筆者の意見
--	-------------

③ 筆者の意図を考えよう  
 ア なぜ、その事実(事例)を取り上げたのか  
 イ なぜ、その順序で述べたのか

④ 事実と意見(事例と要旨)の関係は…

低・中学年の例

事例	事例	事例
↓	↓	↓
事例のまとめ	事例のまとめ	事例のまとめ
筆者の主張	筆者の主張	筆者の主張

中・高学年の例

事例	事例	事例
↓	↓	↓
事例のまとめ	事例のまとめ	事例のまとめ
筆者の主張	筆者の主張	筆者の主張

中・高学年の例

筆者の主張	事例	事例
	↓	↓
	事例のまとめ	事例のまとめ
	筆者の主張	筆者の主張

できたねポイント11 16

						題 だい
						名 めい
						ポイント

# できたねポイント20



## 意見と根拠をいひあはせよう

★ 根拠とは…考えのもとやよびあはせあつたこと

事実に基づいた事柄。 ↑ 事例

☆ 理由とは…その人なりのわけ。

のしげぶじゆん

① 筆者の意見・主張をいひあはせよう

できたねポイント16

② その意見・主張の根拠を見つけよう

ア なぜそう考えたか、わけを説明しよう

できたねポイント4

イ 具体的な事実が書いてあるところ

・ 事例

できたねポイント11・15



③ 筆者の意見に対する自分の意見をもつために、筆者の意見を

検討しよう

ア 筆者の挙げる根拠は適切か

イ 根拠と意見はつながっているか

納得する点

疑問に思う点

賛成する点

反対する点

自分の意見

自分の意見の根拠

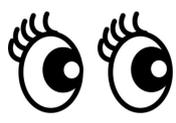
と そう考えた理由

題	名	ポイント

# 意見と根拠をより詳しく

★ 根拠とは…

☆ 理由とは…



のしげぶら

① 筆者の意見・主張をより詳しく

できたねポイント16

② その意見・主張の根拠を見つけよう  
ア なぜそう考えたか、わけを説明しよう

できたねポイント4

イ 具体的な事実が書いてあるところ

できたねポイント11



③ 筆者の意見に対する自分の意見をもつために、筆者の意見を

検討しよう

ア 筆者の挙げる根拠は適切か

イ 根拠と意見はつながっているか

納得する点

疑問に思う点

賛成する点

反対する点

自分の意見

自分の意見の根拠

と そう考えた理由

題	名	ポイント





### 事例を見つけてよう

★事例とは、問題を解決するために必要な知識を記録する。

できたねポイント10

- ① 事例の目的や状況
- ② 事例の目的や状況
- ③ 事例の目的や状況
- ④ 事例の目的や状況
- ⑤ 事例の目的や状況
- ⑥ 事例の目的や状況

### 事実を見つけてよう

★事実とは、問題解決のために必要な知識を記録する。

できたねポイント15

- ① 事実の目的や状況
- ② 事実の目的や状況
- ③ 事実の目的や状況
- ④ 事実の目的や状況
- ⑤ 事実の目的や状況
- ⑥ 事実の目的や状況

### 意見を見つけてよう

★意見とは、問題解決のために必要な知識を記録する。

できたねポイント16

- ① 意見の目的や状況
- ② 意見の目的や状況
- ③ 意見の目的や状況
- ④ 意見の目的や状況
- ⑤ 意見の目的や状況
- ⑥ 意見の目的や状況

### 単元を貫く言語活動例

① 事例カード型リテラシー活動

② スタンダード型リテラシー活動

評価規準

十分満足

2 疑問を解決する

3 事例の目的や状況

### 事例の場合

1 事例の目的や状況

2 事例の目的や状況

3 事例の目的や状況

4 事例の目的や状況

5 事例の目的や状況

6 事例の目的や状況

### 事例の場合

1 事例の目的や状況

2 事例の目的や状況

3 事例の目的や状況

4 事例の目的や状況

5 事例の目的や状況

6 事例の目的や状況

### 事例カード型リテラシー活動

できたねポイント11 (記入する)

★事例とは、問題を解決するために必要な知識を記録する。

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### スタンダード型リテラシー活動

できたねポイント12 (記入する)

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### 事例の場合

1 事例の目的や状況

2 事例の目的や状況

3 事例の目的や状況

4 事例の目的や状況

5 事例の目的や状況

6 事例の目的や状況

### 事例カード型リテラシー活動

できたねポイント13 (記入する)

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### スタンダード型リテラシー活動

できたねポイント14 (記入する)

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### 事例の場合

1 事例の目的や状況

2 事例の目的や状況

3 事例の目的や状況

4 事例の目的や状況

5 事例の目的や状況

6 事例の目的や状況

### 事例カード型リテラシー活動

できたねポイント15 (記入する)

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### スタンダード型リテラシー活動

できたねポイント16 (記入する)

① 事例の目的や状況

② 事例の目的や状況

③ 事例の目的や状況

④ 事例の目的や状況

⑤ 事例の目的や状況

⑥ 事例の目的や状況

### 事例の場合

1 事例の目的や状況

2 事例の目的や状況

3 事例の目的や状況

4 事例の目的や状況

5 事例の目的や状況

6 事例の目的や状況





「できたねポイント」活用授業プラン5・6年生：「意見と根拠」(本プラン)

学習活動

- 単元のめあてを確かめ、学習への見通しを持つ。  
 ○「筆者の考え」を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。  
 ○「筆者の考え」を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。  
 ○「筆者の考え」を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。

できたねポイント

- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。

できたねポイント

- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。

できたねポイント

- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。

できたねポイント

- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。
- 意見の根拠を確かめながら読む。自分の見解を述べよう。

課題把握：主教材(身に付ける力の自覚・学習への目的意識)

① 可視化(活用)

- 「入れ子」構造やABWセット方式を取り入れる。  
 ※7 副教材を活用して読み、自分の見解を述べよう。

課題把握：副教材(身に付ける力の自覚・学習への目的意識)

① 可視化(活用)

① 可視化(活用)

① 可視化(活用)



- 中心となる文(問の文、話題提示の文)文章を抜き出し、見出しをつけて、その意見を述べよう。
- 文章の内容や構成の仕方などを要旨に要約し、自分の意見と根拠を述べよう。
- 要旨と対比させながら事例を読み、理由を述べよう。
- 要旨と対比させながら事例を読み、理由を述べよう。
- 要旨と対比させながら事例を読み、理由を述べよう。
- 要旨と対比させながら事例を読み、理由を述べよう。

意見と根拠をしよう

★ 意見とは「自分の考えや主張」を述べよう。

① 意見の根拠を述べよう。

② 意見の根拠を述べよう。

③ 意見の根拠を述べよう。

④ 意見の根拠を述べよう。

意見を見よう

★ 意見とは「自分の考えや主張」を述べよう。

① 意見の根拠を述べよう。

② 意見の根拠を述べよう。

③ 意見の根拠を述べよう。

④ 意見の根拠を述べよう。

事実と意見の関係

① 事実と意見の関係

② 事実と意見の関係

③ 事実と意見の関係

④ 事実と意見の関係

# 国語科学習指導案（4年〇組）

平成26年10月9日～20日 4年〇組教室 指導者 下田 恭子

## 1 単元名 事実と意見を捉え、考えをまとめよう

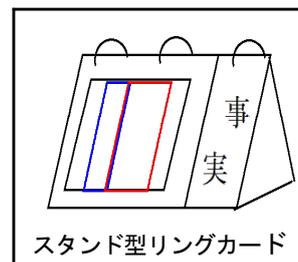
－事例に注目しながら読み、筆者の考えを捉える－ 教材名「点字を通して考える」ほか

## 2 考察

### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年「C読むこと」の「イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え文章を読むこと」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を受けて設定するものである。

本単元を貫く言語活動として「スタンド型リングカードを使って、筆者の考えと自分の考えをまとめ、紹介する」活動を設定した。これは、言語活動例「ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと」を受けたものである。スタンド型リングカードには、見出し・事実・筆者の意見・自分の考えを記入する部分を位置付け、1枚のカードに一つの意味段落の内容をまとめていく。その際、事実について引用、要約した文章は赤い用紙に、筆者の意見については青い用紙に記述しカードに貼る。これにより、段落内の事実と意見を主体的に読み分けていくことができるようにする。また、スタンド型リングカードの台紙の端に、事実と意見のカードを別に設置する。段落ごとにまとめたカードが、事実か意見かを判別しながらめくることにより、筆者と自分の意見を紹介だけでなく、事例として挙げられている様々な事実が、筆者の意見の根拠となるという段落相互の関係を捉えられるようにする。こうした活動を取り入れることにより、本単元のねらいを達成することができる。さらに、事実と意見の関係が、前単元で学習した、事例とまとめの関係と近いことにも気付くことができるであろう。



本教材は、話題提示→事例→まとめという文章構成になっている。「文字は欠かせないもの」という話題提示から、四つの事例を挙げて点字のできるまでを説明し、事例のまとめとして、点字が現在も進化し続けていることを述べている。まとめでは「ユニバーサルデザインという考え方」を取り上げ、全ての人が暮らしやすい社会を作るためには、障害について正しく理解することが必要であると主張し、「自分とはちがう立場の人のことを考えられる力こそ、『本当のやさしさ』といえるのではないかと」とまとめている。四つの事例は歴史的な事実であるため、事実として捉えやすく、主張部分の文末表現は、「～知ってほしいと思います。」「～できるのです。」「～と考えてみてください。」「～といえるのではないかと思います。」となっており、意見として捉えやすい。また、事実を基に主張を述べるというシンプルな構成になっているため、初めて、事実と意見を捉える学習をする児童にとって適した教材となっている。中心となる語句や文を見付けたり、表にまとめたりするなど、既習事項を活用することによって、要点をまとめる力を高めしていくこともできる。

課題把握の過程では、本単元で身に付ける力を児童に自覚させるために、評価規準を指導者と共有する。単元のゴールを明らかにした上で、主教材を基に、一斉指導の中でスタンド型リングカードを作成する。

課題追究の過程では、身に付いた力を活用し、自分の力で、スタンド型リングカードを作成する。そのために、副教材として、二つの文章を用意した。共に児童にとっては初見の文章である。また、事例とまとめが分かりやすく書かれているため、児童が自分の力で、事実と意見を捉えることに適している。一方は、事例が三つの短い文章で、他方は、事例が六つの長い文章である。児童が

自分で選ぶことにより、無理なく取り組めるようにする。

なお、副教材を読む際には、『「入れ子構造」モデル』や『A B ワンセット方式』を取り入れ、主教材の学びを即座に、副教材の読みに生かすことができるようにする。そのため、課題把握の過程と課題追究の過程が並行して進む形になる。

まとめの過程では、身に付いた力を、次の読みに活用できる力として自覚するために、振り返りの活動を取り入れる。

このような学習を通して、事実と意見を整理しながら要点をまとめ、段落相互の関係を捉える力を身に付けさせることができると思う。

### 3 研究との関わり

本単元では、課題把握の過程で、評価規準である「できたねポイント」を指導者と児童が共に作成し、活用することによって、児童が身に付ける力を自覚し、目的意識を持って学習に取り組むことができたかを検証する。このとき、初出の指導事項であれば新規に「できたねポイント」を作成し、既習の指導事項であれば、既にある「できたねポイント」に加筆していくことにより、発達段階に応じた評価規準を複数年度に渡って形式的に作り上げていくことができる。

また、課題追究の過程では、主教材を読む活動を通して作成した「できたねポイント」や、既習事項である「できたねポイント」を用いて、副教材を読む活動を行う。これにより、身に付いた力を、「できたねポイント」を通して可視化させながら、次の読みに活用させることができる。

さらに、まとめの過程では、「できたねポイント」を基に学習の振り返りを行う。主教材を読む際に用いた「できたねポイント」のポイント欄に印を付けて評価するだけでなく、副教材を読む際に、児童が主体的に用いた「できたねポイント」のポイント欄にも印を付ける。こうした活動を繰り返すことで、児童は、既習事項を活用するようになると考える。

このように、各過程で「できたねポイント」を用いた本単元構想及び「できたねポイント」が、研究テーマである「説明的な文章における読む力を高め」ていくことに有効であるかを、本実践を通して明らかにしていく。これは、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた、群馬県の国語科の課題である「目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること」の改善にもつながると考える。

### 4 単元の目標

事実と意見を整理しながら事例に注目して読み、筆者の意見について、自分の意見をまとめ、紹介することができる。

### 5 指導計画（全9時間予定）

評価規準	国語への 関心・意欲・態度	段落相互の関係を考えながら説明的な文章を読み、読んだ感想を交流し、互いの感じ方を認め合おうとしている。		
	読む能力	筆者の意見と自分の意見を紹介するために、事例や中心となる語句、文を捉え、事実と意見との関係などを考えて文章を読んでいる。		
	言語についての 知識・理解・技能	事実と意見を整理するために文末表現に気を付けたり、段落相互の関係を捉えるために指示語や接続語に気を付けたりして文章を読んでいる。		
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時 ）	課題	○語句の意味の理解 ○文章構成の知識	○文章の内容を大まかにつかむ力	○主教材を読み、本単元における学習計画を知る。

第8時	把握・課題追究（入れ子構造・A B ワンセット方式）	<p>（はじめ・中・終わり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○形式段落の主旨の知識</li> <li>○中心となる語句や文題の知識（繰り返し・題名・まとめ など）</li> <li>○引用・要約の知識</li> <li>○接続語、指示語の知識</li> <li>○文末表現に関する知識</li> <li>○事例の知識</li> <li>○事例とまとめの関係に関する知識</li> <li>○表にまとめる知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の構成をつかむ力</li> <li>○話題提示の段落を捉える力</li> <li>○要点をまとめる力</li> <li>○事実と意見を読み分ける力</li> <li>○事実と意見の関係を捉える力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章を通読し、全文を三つのまとまりに分け、見出しを付ける。</li> <li>○スタンド型リングカードにまとめるために、事実と意見を整理しながら文章を読む。</li> <li>・「はじめ」を読み、文字は大切だという筆者の意見を読み取る。</li> <li>・「中」の③～⑧段落を読み、それぞれの点字の良い点・悪い点を読み取り、表にまとめる。</li> <li>・「中」の⑨～⑪段落を読み、日本の点字ができるまでと「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取る。</li> <li>・「終わり」を読み、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見を読み取る。</li> <li>○筆者の主張を読み取り、それに対する自分の意見をまとめる。</li> <li>○スタンド型リングカードで紹介しながら、段落間における事実と意見の関係を考える。</li> <li>○副教材で適用し、身に付いた力を一般化する。（「入れ子」構造・「A B ワンセット方式」）</li> </ul>
第9時	まとめ	○発表・交流の知識	○感じ方の違いに気付く力	○友達と交流し、感じ方の違いに気付く。

## 6 本時の展開（1／9）

- (1) **ねらい** ・ 「できたねポイント」を用いて、本単元で身に付ける力を知り、学習の見通しを持つことができる。
- ・ 文章の組み立てを大まかに「はじめ・中・終わり」で捉えることができる。
- (2) **準備** 全文シート・「できたねポイント」（「事例」・「事実」・「意見」・「話題提示」）
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 「点字を通して考える」で学習することを知り、学習の見通しを持つ。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味を喚起するために、点字について知っていること、点字を通して何を考えるのか問い掛ける。</li> </ul>
<p><b>[学習課題]</b> 「点字を通して考える」で学習することを知り、計画を立てよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「事実と意見を捉え、考えをまとめよう」「事例に注目しながら読み、筆者の考えを捉えよう」という、本単元の学習課題を知る。</li> <li>○ 前単元の学習を想起し、事例につ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本単元で何を学ぶのか」を意識できるように、単元のねらいをカードに書き、毎時間、掲示する。</li> <li>◎ 事例について忘れていた児童には「できたねポイント」で確認するよう助言する。確認後、既習事項活用の意識付けのため、全員に主教材名を記入する</li> </ul>

いて確認する。

- 事例の内容は事実や観察だった。
- 答えを詳しく説明していた。
- 説得力が増した。

○ スタンド型リングカードのモデル作品を見て、学習への意欲を高めるとともに、到達点を知る。

- スタンド型リングカードを上手に作ってみたい。

- どうやったら作れるのかな。

○ スタンド型リングカードの作り方を知る。

○ 「できたねポイント」で事実と意見について理解する。

〈事実〉

- 本当のこと
- 本当にあったこと

- ～です。
- ～だ。

〈意見〉

- 考え
- 思ったこと

- ～だと思えます。

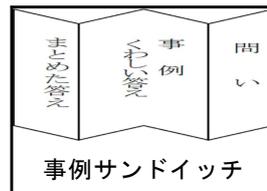
- このように

○ 学習計画表を見て流れを確認する。

- こんな流れで学習するんだな。
- スタンド型リングカードを二つ作るんだな。
- 二つ目はできるだけ自分の力で作りたいな。
- 事実と意見を読み分けられるようになりたいな。
- 事実と意見はどんな関係かな。

よう指示する。

- 事例とまとめという段落相互の関係や「このように」というまとめのつなぎ言葉を想起できるように、前単元で用いた教材文「ミラクルミルク」の事例サンドイッチを提示する。



- 事実と意見が事例とまとめと同じように表れる構成を捉えることができるように、段落ごとにまとめたカードをめくりながら、事実と意見を判別するスタンド型リングカードづくりを設定する。
- 前単元の学習を活用することができるように、事例サンドイッチと同じ教材文「ミラクルミルク」で作成したスタンド型リングカードのモデル作品を提示する。
- 事実の要点を赤い紙に、筆者の意見の要点を青い紙に書くことから、事実と意見の読み分けが必要なことを伝える。
- 「できたねポイント」で一方向的に知識を伝えることにならないように、事実や意見について、児童の発言を取り上げるようにする。その上で、以下のことを確認する。

- 事実とは…  
実際に行ったこと・現実の出来事・自分が直接経験したことなど。  
〔過去の出来事は、児童が、学習の中で気付けるように、この段階では触れないようにする。〕
- 事実を見付けるときに着目すること  
文末表現（～です。～なのです。など）
- 意見とは…  
事実についての筆者の考え
- 意見を見付けるときに着目すること  
文末表現（～と考えます。～と思うのです。など）  
つなぎ言葉（このように・だから など）

- 確認後、「できたねポイント」に主教材名を記入するよう指示する。
- 学習の流れが一目で分かるように、学習計画表を提示する。
- 学習したことをしっかり身に付けられるように、『「入れ子」構造』や『A B ワンセット方式』を取り入れながら、副教材のスタンド型リングカードを作成することを伝える。
- めあてを持って学習に取り組むことができるよう

		に、自分のめあてを簡潔に書く場を設ける。 ◇ 事実と意見を読み分けてスタンド型リングカードを作ることを理解し、自分のめあてを考えている。(観察・学習計画表)【関・意・態】
2 文章の組み立てを捉える。 ○ 形式段落に番号を付ける。 ○ 範読を聞きながら、新出漢字や意味の分からない語句について確認する。 ○ 全体を三つのまとまりに分け、まとまりごとに見出しを付ける。 ・ 三つのまとまりに分ける。 ・ 話題提示の段落について知る。 ・ 形式段落ごとに主語や中心となる語句を見付ける。 ・ 中心となる語句を基に見出しを付ける。	14分	・ 文章の構成を視覚的に捉えることができるように全文シートを用いる。 ・ 今後の学習で、サイドラインを引いた箇所などを口頭で説明しやすいように、形式段落に番号を付けるよう指示する。 ◎ 段落分けの視点を持つことができるように、範読前に、「はじめ・中・終わり」の各部分に書かれる事柄などについて既習事項を確認する。 ・ はじめ……問い・事例 ・ 中……説明・詳しい答え・事例 ・ 終わり……まとめた答え・伝えたいこと ・ それぞれのまとまりは同じ事柄について書かれている。 ・ 問い掛けの文章や1行空きの箇所から三つのまとまりに分けたことを確認する。 ・ 問い掛けの後にすぐ答えがあることから、全体にかかる問いではなく、話題提示の文であることを説明し、「できたねポイント」で確認する。 ◎ 形式段落の主語や繰り返し出てくる言葉に着目するよう助言する。 ◇ 文章の組み立てを「はじめ・中・終わり」で捉えている。(全文シート)【読む能力】
<ul style="list-style-type: none"> <li>文字のことが書いてある。</li> <li>点字のことが書いてある。</li> <li>外国の点字と日本の点字</li> <li>点字ができるまで</li> <li>ユニバーサルデザイン</li> </ul>		
・ 全体で確認する。		
3 学習のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。	1分	・ 児童の意欲を高めるために、次時は「はじめ」の部分のカードを作成することを伝える。
4 副教材で適用する。	10分	◎ 文章の組み立てを捉えることに、時間を要する児童には、問いの文や「このように」に着目するよう、机間支援の中で個別に伝える。

## 7 板書計画

ユニバーサルデザイン

点字の歴史

文字

本文記載

全文シート

◎ 全文を三つに分けよう。  
はじめ・・・問い・事例・**話題でい示**  
中・・・説明・くわしい答え・事例  
終わり・・・まとめた答え・伝えたいこと  
※まとまり↓同じことについて書かれている  
👁️ 形式段落の主語  
👉 キーワード↓くり返し出てくる

「点字を通して考える」  
事例に注目しながら読み、  
筆者の考えをとらえよう  
スタンド型リングカードで  
筆者の意見と自分の意見を  
しようかいしよう

6 本時の展開 (2/9)

- (1) **ねらい** 「はじめ」の部分を読み、文字は大切だという筆者の意見を読み取ることができる。  
 (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・用紙 (赤・青・白)・カード  
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタンド型リングカードの作り方を想起できるようにモデル作品で確認する。</li> </ul>
<p><b>【学習課題】</b> 「はじめ」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p>		
<p>2 「はじめ」の部分を読んで、スタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見出しを書く。</li> <li>○ 事実と意見が書かれているところを見付ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どれも筆者の意見みたいだな。</li> <li>・ 「文字は欠かせないもの」は、事実でもあるけど、作者の強い思いを感じるな。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の意見を要約して青い用紙に書く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆者の意見に対する自分の意見を白い用紙に書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の意見に賛成だな。</li> <li>・ 本や新聞を読むときに文字がないと困るね。</li> <li>・ 看板・標識・手紙・メールなど</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カードに貼る。</li> </ul>	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に学習した事実と意見を読み分けるための、論理構造を読む視点を「できたねポイント」で確認する。</li> <li>・ 事実と意見を視覚的に捉えるために、事実は赤、意見は青のサイドラインを、全文シートに引くよう指示する。</li> </ul> <p>◎ 事実なのか意見なのかを判断するために、以下のことに着目するよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文末表現「～かもしれません。」……不確か</li> <li>・ 文末表現「なのです。」……強く言い切る言い方</li> </ul> </div> <p>◎ 要約に時間を要する児童には「できたねポイント 9：要点」を示したり、以下の手順を示したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①②段落のどちらが筆者の伝えたいことか。</li> <li>・ ②段落の前後半のどちらが筆者の伝えたいことか。</li> <li>・ ②後半の文中にある「そういう」は何を指しているか。</li> </ul> </div> <p>◎ 自分の意見を書き出せずにいる児童には、まず、文字は大切と思うか思わないかを書き、次に、なぜ、そう思うかを書く頭括型の文型を示すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを活用しながら副教材に取り組むことができるように、主教材については全体での確認をしっかりと行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、「文字は大切だ」とい筆者の意見を読み取り、スタンド型リングカードにまとめている。(カード)【読む能力】</p> </div>
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文末表現「～かもしれません。」→意見</li> <li>・ 事実とは……確かめることができること。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、「中」の部分のカードを作成することを伝える。</li> </ul>
4 副教材で適用する。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。</li> </ul> <p>◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で論理構造を読む視点を個別に伝える。</p>



<ul style="list-style-type: none"> <li>表にすると違いが良く分かる。</li> <li>前に起きた出来事は事実だから赤い用紙でいい。</li> </ul> <p>○ 見出しを書く。</p> <p>○ 凸字、六点点字、十二点点字について表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表の項目は何にしたらいいのかな。</li> </ul> <p>○ 筆者の意見があるか確認する。</p> <p>○ 事実に対する意見を白い用紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブライユはすごいな。</li> <li>それほど、読んだり書いたりしなかったんだな。</li> <li>点字ができるまで大変だったな。</li> </ul> <p>○ カードに貼る。</p>	<p>点字について、表にまとめると良いことに気付けるようにする。また表のよさを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三つの事例が事実であることに気付けるように、表は何色の用紙に書けば良いかを発問する。</li> </ul> <p>◎ 「できたねポイント」で既習事項を確認するよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「良い点」「悪い点」という表の項目を捉えるために、「満足できるものではありませんでした。」「欠点がありました」「凸字にくらべてはるかに分かりやすいものでした」という叙述を示す。</li> <li>学習したことを活用しながら副教材に取り組むことができるように、主教材については全体での確認をしっかりと行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 叙述に基づいて、凸字、十二点点字、六点点字の良い点と悪い点をまとめている。 (カード)【読む能力】</p> </div>
<p>3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>事実…過去の出来事</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時は、「中」の⑨～⑪段落のカードを作成することを伝える。</li> </ul>

## 7 板書計画

<p>日本の点字</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">⑪ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">⑩ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">⑨ 本文記載</td> </tr> </table>	⑪ 本文記載	⑩ 本文記載	⑨ 本文記載	<p>外国の点字ができるまで</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">⑧ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">⑦ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">⑥ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">⑤ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">④ 本文記載</td> <td style="text-align: center;">③ 本文記載</td> </tr> </table>	⑧ 本文記載	⑦ 本文記載	⑥ 本文記載	⑤ 本文記載	④ 本文記載	③ 本文記載	<p>○ 「中」の③～⑧段落をまとめよう。</p> <p>事実・・・赤いサイドライン 意見・・・青いサイドライン</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>スタンド型リングカードで 筆者の意見と自分の意見を しようかいしよう</p> </div> <p>「点字を通して考える」 事実と意見をとりえ、考えをまとめよう 事例に注目しながら読み、 筆者の考えをとらえよう</p>
⑪ 本文記載	⑩ 本文記載	⑨ 本文記載									
⑧ 本文記載	⑦ 本文記載	⑥ 本文記載	⑤ 本文記載	④ 本文記載	③ 本文記載						
<p>※形式段落の主語や中心となる文に印を付け、いつどこで誰が何をしたのかを押さえた。</p>											
<p>全文シート：「中」前半</p>											

6 本時の展開 (4 / 9)

- (1) **ねらい** 副教材の「中」の部分を読み、事例の要点を表や文章でまとめることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・用紙 (赤・青・白)・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【学習課題】 副教材の「中」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p> </div>
2 前時の学習を想起する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時は「点字を通して考える」の「中」の前半部分の事例を表にまとめたことを想起する。</li> </ul>
3 副教材で適用する。 ○ 「中」の部分を読んで、事実と意見を見付ける。  ○ どのようにまとめるか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章でまとめよう。</li> <li>・ 表にまとめよう。</li> </ul> </div> ○ 見出しを書く。 ○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。 ○ 意見をまとめて青い用紙に書く。 ○ 事実に対する意見を白い用紙に書く。 ○ カードに貼る。	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を捉えるために、全文シートに事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。</li> <li>・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。</li> <li>◎ 事実と意見の読み分けや要約、表の項目づくりに、時間を要する児童には、机間支援の中で着眼点を個別に伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめている。(カード)【読む能力】</p> </div>
4 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、主教材の「中」の後半部分のカードを作成することを伝える。</li> </ul>

7 板書計画

- 「中」の部分をもとめよう。  
事実・・・赤いサイドライン  
意見・・・青いサイドライン
- 文章でまとめる。  
・ 表でまとめる。  
↓ 事例はいくつあるかな。  
項目は何にしようかな。
- 筆者の意見を見付けよう。
- 自分の意見をまとめよう。

「点字を通して考える」  
**事実と意見**をとらえ、考えをまとめよう  
 事例に注目しながら読み、  
 筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで  
 筆者の意見と自分の意見を  
 しようかいしよう

6 本時の展開 (5/9)

- (1) **ねらい** 「中」の⑨～⑪段落を読み、日本の点字ができるまでと、「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取ることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・用紙 (赤・青・白)・台紙
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。</p> <p><b>【学習課題】</b> 「中」の⑨～⑪段落を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p>	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。</li> </ul>
<p>2 「中」の⑨～⑪段落をスタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見出しを書く。</li> <li>○ 事実が書かれているところを見付ける。           <p>・ 明治とか1890年とか昔のことが書いてある。</p> </li> <li>○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。           <p>・ 順番にまとめるといい。</p> <p>・ 表にできるかもしれない。</p> </li> <li>○ 筆者の意見が書かれているところを見付ける。           <p>・ 「～だったのでしょ。」</p> <p>・ 「変えていくのです。」も強い思いを感じるよ。</p> <p>・ 「どの時代も」と同じで、全部の時代を表していると思う。</p> <p>・ 今まで出てきた年代をまとめていると思う。</p> </li> <li>○ 筆者の意見に対する自分の意見を白い用紙に書く。           <p>・ 筆者は、目の不自由な人たちの気持ちを良く考えていると思う。</p> <p>・ 数字や楽譜だけじゃなく、パソコンで使う記号も表せるなんて点字を研究している人はすごいと思う。</p> </li> <li>○ カードに貼る。</li> </ul>	23分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と意見を捉えるために、全文シートに、事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。</li> <li>◎ 事実が書かれているところを見付けられずにいる児童には、「過去の出来事は事実である」ことを想起できるように、「できたねポイント」で確認することを助言する。</li> <li>◎ 時間的な順序を追ってまとめることができるように、時間を表す言葉に着目できたところで、どのようまとめたら良いか問い掛ける。</li> <li>◎ 意見が書かれているところを見付けられずにいる児童には、文末表現に着目できるように、「できたねポイント」で確認することを助言する。</li> <li>・ 事実に対する意見が、事例に対するまとめの関係になっていることに気付くことができるよう、「いつの時代も」という言葉と、これまで出てきた時間を表す言葉との違いを考えるよう発問する。</li> <li>・ 筆者の主張する、点字のすばらしさに気付くことができるように、実際の点字 (教科書の資料) に触れる時間を設定する。</li> </ul> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、日本の点字ができるまでと、「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取っている。 (カード) <b>【読む能力】</b></p>

3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>事実に対する意見は、事例に対するまとめの関係と似ている。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時は、「終わり」の部分のカードを作成することを伝える。</li> </ul>
4 副教材で適用する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。</li> </ul> <p>◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で着眼点を個別に伝える。</p>

## 7 板書計画

日本の点字

○ 「中」の⑨～⑪段落をまとめよう。

事実・・・赤いサイドライン  
意見・・・青いサイドライン

「点字を通して考える」

「**事実**と**意見**をとらえ、考えをまとめよう

事例に注目しながら読み、  
筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで  
筆者の意見と自分の意見を  
しようかいしよう

⑪ …… 本文記載 ……

⑩ …… 本文記載 ……

⑨ …… 本文記載 ……

※抽象的な時を表す言葉（まとめた表現）に印を付けた。

※具体的な時を表す言葉に印を付けた。

全文シート：「中」前半

## 6 本時の展開（6／9）

- (1) **ねらい** 「終わり」の部分を読んで、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見について読み取ることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。</li> </ul>
<p><b>[学習課題]</b> 「終わり」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p>		

<p>2 「終わり」の部分を読んで、スタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実と意見が書かれているところを見付ける。</li> <li>○ 見出しを書く。</li> <li>○ 事実か意見か迷ったところを話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「必要です。」はどっちかな。</li> <li>・ 「便利です。」はどっちかな。</li> <li>・ 誰がそう思っているのかな。</li> <li>・ 人々かな。筆者かな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ⑫⑬段落は事実かな。</li> <li>・ ⑭⑮段落は意見かな。</li> <li>・ 「～ほしいと思います。」</li> <li>・ 「～と考えてみてください。」</li> <li>・ 「～と思います。」と書いてある。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。</li> <li>○ 筆者の意見をまとめて青い用紙に書く。</li> <li>○ カードに貼る。</li> </ul>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を捉えるために、全文シートに事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。</li> <li>・ 事実か意見か迷ったところについて話し合う場を設定し、必ずしも明確に分けられるわけではないことを伝える。</li> <li>・ 形式段落で考えたら事実と意見のどちらかを問い掛け、まとまりとして捉えるようにする。</li> <li>・ 明らかな事実として「ユニバーサルデザインの考え方」を取り上げ、どんな考え方を赤い用紙にまとめるよう指示する。</li> <li>・ 文末表現に着目して、筆者の意見をまとめるよう指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見を読み取っている。 (カード)【読む能力】</p> </div>
<p>3 学習のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見と、はっきり分けられないこともある。まとまりとして捉えることも一つの方法。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、文章全体を通して筆者が伝えたかったことを読み取り、それに対する自分の意見をまとめることを伝える。</li> </ul>
<p>4 副教材で適用する。</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。</li> </ul> <p>◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で、論理構造を読む視点を個別に伝える。</p>

7 板書計画

ユニバーサルデザインの考え方			
意見	意見	事実	事実
⑮	⑭	⑬	⑫
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・

全文シート：「中」前半

○ 「終わり」の部分をまとめよう。

事実・・・赤いサイドライン  
意見・・・青いサイドライン

「点字を通して考える」  
「**事実**と**意見**をとらえ、考えをまとめよう」  
事例に注目しながら読み、  
筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで  
筆者の意見と自分の意見を  
しようかいいしよう

6 本時の展開（7/9）

- (1) **ねらい** 文章全体を通して筆者が伝えたかったことを読み取り、それに対する自分の意見をまとめることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	
<p><b>[学習課題]</b> 文章全体を通して筆者が伝えたかったことを読み取り、それに対する自分の意見をまとめよう。</p>		
2 文章全体を通して筆者が伝えたかったことを読む。 ○ これまでまとめてきたカードを読み返し、筆者が最も伝えたかったことは何かを考える。	10分	◎ 筆者の主張を読み取ることができるように、筆者の意見をまとめた青い用紙を中心に読み返すことを伝える。  ・ 筆者の主張を明らかにするために、筆者の伝えたかったことは「点字」なのか「ユニバーサルデザインの考え方」なのかを問う。  ・ 筆者の主張を明らかにするために、筆者の最も伝

- ・ 点字は赤い用紙に書いてある。
  - ・ 点字について書かれたことは、事実が多い。
  - ・ 「ユニバーサルデザインの考え方」も赤い用紙に書いた。
- ・ 意見は青い用紙にまとめたよ。



6 本時の展開（8／9）

- (1) **ねらい** 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実が意見の根拠になっていることを捉えることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・作成したカード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	
<p><b>【学習課題】</b> 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実と意見の関係を考えよう。</p>		
<p>2 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードを使って紹介する。</p> <p>○ これまでまとめてきたカードをリングに通し完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やっと出来上がった。</li> <li>・ うれしいな。</li> </ul> </div> <p>○ 紹介の仕方を練習する。</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要約につながるように、本当に必要なところだけを読むように指示する。また、つなぎ言葉など足りない言葉は付け足してよいことも伝える。</li> <li>◎ 筆者の意見である青いカードは読み落とさないように助言する。</li> <li>・ 友達の発表のよさを知るために、ペアで聞き合う時間を設ける。</li> </ul>
<p>3 事実と意見の段落相互の関係を考える。</p> <p>○ カード端の事実・意見カードの操作の仕方を考える。</p> <p>○ 事実と意見の段落相互の関係について気付いたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実が続いた後に意見が来る。</li> <li>・ 事実が意見の説明になっている。</li> <li>・ 事実が意見の理由になっている。</li> <li>・ 事実が意見のもとになっている。</li> </ul> </div>	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落相互の関係を捉えることができるように、見えているカードが、主に事実の段落か意見の段落かによって、カードを変えるよう指示する。</li> <li>◎ 正しく操作できているかを確認する。</li> <li>・ 段落相互の関係について、児童の言葉でまとめるために、気付いたことを発表する場を設ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇ 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実が意見の根拠になっていることを捉えている。</p> <p>(発言・観察)【読む能力】</p> </div>
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実が意見のもとになっている。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時は、副教材のスタンド型リングカードを使って紹介し合うことを伝える。</li> </ul>
4 副教材で適用する。	12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副教材の事実と意見の関係を捉えているかを確認するためにワークシートを用意する。</li> <li>◎ 副教材のスタンド型リングカードの操作の仕方や発表の仕方を確認する。</li> </ul>

7 板書計画

「点字を通して考える」  
**事実と意見**をとらえ、考えをまとめよう  
 事例に注目しながら読み、  
 筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで  
 筆者の意見と自分の意見を  
 しようかいしよう

○ スタンド型リングカードでしようかいしよう  
 ・ 大事などころだけを読もう。  
 ただし、  
 青い用紙⇨筆者の意見を落とさないように

○ 事実と意見の関係を考えよう。  
 ・ カードをそっさししながら気付いたことは・・・  
 事実が続いて最後が意見になっている。  
 事実が意見の説明になっている。  
 事実が意見の理由になっている。  
 事実が意見のもとになっている。

6 本時の展開 (9/9)

- (1) **ねらい** 副教材をスタンド型リングカードで紹介し、友達と意見交流をすることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・作成したカード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	
<b>[学習課題]</b> 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し、友達と意見交流をしよう。		
2 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し合う。 ○ 発表練習をする。 ○ 3～4人グループで発表し合う。 ○ 互いに評価し合う。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中して発表が聞けるように、「こんなところがいいねカード」を用意し、相互評価し合えるようにする。</li> <li>・ 互いの感じ方を認め合うことができるように、良かったところを感想として伝えるように声を掛ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 ◇ 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し、友達の意見に感想を述べている。                  (観察・相互評価カード) <b>【読む能力】</b> </div>
3 本単元の学習を振り返る。 ○ 本単元の学習で分かったことやできるようになったことを「できたねポイント」で振り返る。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付いた力を自覚することができるように、「できたねポイント」に書き込んだことを振り返る。</li> <li>・ 学習して分かったことを「ふり返り」に記入する。</li> <li>・ 達成感を得られるように、頑張りや認める言葉掛けをしながら「できたねポイント」のポイント欄に印を付ける。</li> </ul>
4 学習のまとめをする。	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 違うグループの作品を見て回る。</li> </ul>

「点字を通して考える」

「**事実**と**意見**をとらえ、考えをまとめよう

事例に注目しながら読み、

筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで

筆者の意見と自分の意見を

しようかいしよう

- スタンド型リングカードでしようかいしよう
- ・ グループで発表し合う。
- ・ 「こんなところがいいねカード」を書く。
- ・ ほかのグループの作品を見る。

「点字を通して考える」学習計画表 名前

時	「点字を通して考える」	自分で選んだ文章
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「できたねポイント」で学習するところを知ろう</li> <li>・ 段落分けをしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「副教材名」 } どちらかに</li> <li>・ 「副教材名」 } ○を付ける</li> <li>・ 段落分けをしよう</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「はじめ」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「はじめ」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「中」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>	
④		
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「中」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「中」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「終わり」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実と意見を整理しながら、「終わり」の部分を</li> <li>・ スタンド型リングカードにまとめよう</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の伝えだかったことを読み取り、それに対する、</li> <li>・ 自分の意見をまとめよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の伝えだかったことを読み取り、それに対する、</li> <li>・ 自分の意見をまとめよう</li> </ul>
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタンド型リングカードで「点字を通して考える」をしようかいつしよう</li> <li>・ 事実と意見の関係を考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタンド型リングカードでしようかいつ練習をしよう</li> <li>・ 事実と意見の関係を考えよう</li> </ul>
⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタンド型リングカードで、選んだお話をしようかいつしよう</li> <li>・ 友達の記事を聞いた感想を「こんなところがいいね」カードで伝えよう</li> </ul>	
めあて		
振り返り		

「英字を遣って考える」 スタンド型リングカード① 名前

見出し	

「点字を避けて考える」スタンダード型リングカード② 名前

見出し			
	説明	よい点	悪い点
なし	/		
凸字			
十二点字			
六点字			

「5字を揃」ときえる」スナンド群リンダカード③ 名前

見出し	
-----	--

--



スタンド型リングカード① 名前

見出し	
-----	--

--

スタンド型リングカード② 名前

見出し	

スグハンド群りんぐカード⑧ 名前

見出し	
-----	--

--

スタンド型リングカード④ 名前

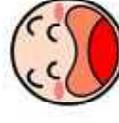
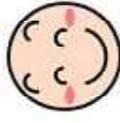
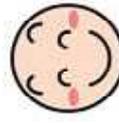
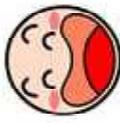
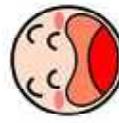
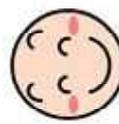
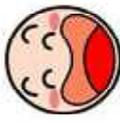
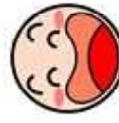
見出し	

スタンド廻りインダカード 名前

見出し	「 _____ 」を読んで ～ 筆者の意見に対する自分の意見 ～
書きたる意見の 関係は・・・	

# みんなと一緒がいいねカード

# 名前

名前	どちらかに ○を 付けよう	事実と意見が整理 され、筆者の意見 が、よく分かった	自分の意見を、 理由を挙げながら 発表していた	感想 みんなと一緒がいいね
	「副教材名」			
	「副教材名」			
	「副教材名」			
	「副教材名」			
	「副教材名」			
	「副教材名」			

# できたねポイント11



## 事例を見つけよう

★事例とは…物事を知らせたり、考えを述べたりするときに、しよつかいする **具体的な** できごとの例

① 書いてある内容ないよう

② 事実・実験  
目印になる言葉・事例の数にも気をつけて読もう。  
まず・次に・最後に  
一つめ・二つめ・三つめ  
例えば

③ 事例のまとめ・具体的な例をあげた後に、まとめがある。  
このように

事例
事例
事例
まとめ

事例
まとめ
事例
まとめ

④ 事例と事例のつながり方

⑤ 事例とまとめ

○黒字  
課題解決のために、あらかじめ与えたり、確認したりした事柄  
○赤字  
既習事項  
本単元で加筆した事柄

⑥ 事例の効果・役わり  
答えの理由がよく分かる  
説とく力がある  
なっとくする

題	名	ポイント

# できたねポイント9



## 要 点 を ま と め て し め じ め

★ 要点とは…文章の大事なところ

のしつていん

- ① 中心となる語句
- ② 中心となる文
- ③ 形式段落の要点をまとめよう

できたねポイント

ア 形式段落の中心となる文を見つけろ。  
 イ 中心となる文を短くまとめる。

- ④ 意味段落の要点をまとめよう
- ア (形式段落ごと)に中心となる語句や文を見つけろ。  
 イ それらをつなげて短くまとめる。

・このまじり言葉は、その内ようが分かるように書け。

題 名		ポ イ ン ト	

# できたねポイント10



## 話題をひもとく

★ 話題とは…文章の内容となる事がり

★ 話題提示文とは…これから説明することを示した文  
のつけぎ

- ① 題名に用いている言葉やそれにつながる言葉が用いている文
- ② 言い切る文
- ③ 投げかけている文  
～し～みまじょう。
- ④ 問いかけている文+言い切る文  
あなたは、皆、は、(じいじい) 思いますか。
- ⑤ 問いかけている文+答えている文

・問いかけた、すぐ後に、答えがある。

						題	名	ポイント

# できたねポイント15



## 事実を見つけた

★ 事実とは… 実際に行ったこと・現実のどきごと  
自分が直せつ経験したこと

本当のこと  
かじのどきごと  
れきしJIEIUNENJU

のちげいじ

① 文末表現  
ぶんまつひょうげん

すす。すなすす。

すす。

② 文章の内容  
ぶんしょうのねいよう

事実と意見  
↓はじきりしうぶんけらねなごじうかめね  
↓まじまじしうぶんけらね

						題 だい
						名 めい
						ポイント

# できたねポイント16



## 意見を見つけよう

★ 意見とは…自分の思いや考えを述べたもの  
 事実についての筆者の考え

のしげぶん

① 文末表現  
 ～と考えます。～と思います。～思います。

～かも知れません。～でしょう。  
 ～にちがいない。～のはず。

～のです。～なのです。

② 文末以外の表現

やっぱり。せっかく。どうして。

③ つなぎ言葉

だから。このように。つまり。

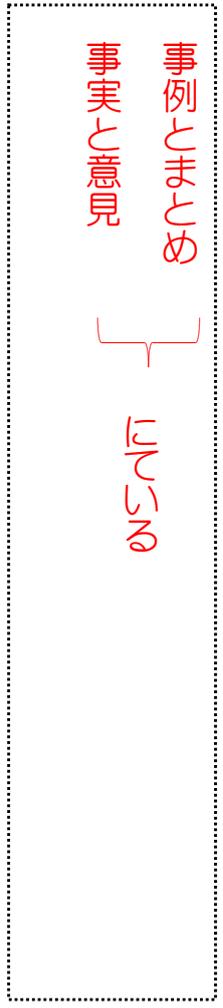
④ 文章構成

できたねポイント14

文章の最後。このように。の後

⑤ 事実と意見の関係

事実は意見のくわしい説明  
 事実は意見のもと・理由・根拠になっている



題	名	ポイント

評価問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

〇〇〇

△△ △△

①	
②	本文記載
③	

(しよりのせく)

④	
⑤	
⑥	本文記載

(一部編集)

名前 ( )

一 本文を読んで、事実が書かれている文章には赤、意見が書かれている文章には青のサイドラインを引きましょう。まとまりを線で囲んでもかまいません。

※ すべての文章にサイドラインを引くのではなく、中心となる文章だけに引いてもよいです。

二 スタンド型リングカードを作ります。それぞれのまとまりごとに、事実は赤い用紙、意見は青い用紙に要点をまとめて書きましょう。使わない用紙があってもかまいません。

① 段落

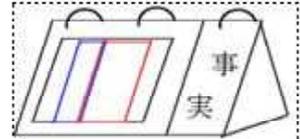
意見・青い用紙	
事実・赤い用紙	
見出し	

②③ 段落

見出し	
事実・赤い用紙	
意見・青い用紙	

④⑤⑥ 段落

見出し	
事実・赤い用紙	
意見・青い用紙	



スタンド型リングカード

⑤                                      ④                                      ③                                      ②                                      ①

本文記載

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。      (      年      組      番      氏名      )

正子さんの学級では、スタンド型リングカードを使って、筆者の考えと自分の考えをまとめ、しようかいすることにしました。スタンド型リングカードづくりでは、筆者の意見は青い紙、事実は赤い紙、自分の意見は白い紙に記入します。また、右はしのカードをめくることが、そのまとまりが、主に事実を表しているのか、意見を表しているのかを表します。正子さんは、「○○○」という文章を読んで、スタンド型リングカードをつくることにしました。

「○○○」

△△△△△ (一部編集)

一、文章を「はじめ・なか・おわり」の三つのまとまりに分けた後、さらに中を二つに分けました。「はじめ」を例にして、表を完成させましょう。

ア それぞれのまとまりに書かれた内容が、主に「事実」か「意見」かを考えて記入しましょう。

イ それぞれのまとまりが、どんなはたらきをしているか、書きましよう。

おわり	なか	はじめ	
⑤	④	② ③	①
			意見
			話題のほたらき

二、形式段落③にある「くがさです」「くのはです」「は、理由を表す言い方です。なんの理由を述べているのでしょうか。」

理由。

三、形式段落③の、中心となる文はどれでしょう。本文に―線をひきましょう。

四、形式段落④のカードをつくりましよう。カードに記入するように、文章の大事なところをまとめましよう。



出題に係る指導事項

【第三学年及び第四学年】  
 イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の關係や事実と意見との關係を考え、文章を読むこと。  
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

一 解答

おわり	なか		はじめ	形式段落
⑤	④	② ③	①	主に 意見／事実
意見	事実	事実	意見	段落のはたらき
まとめ 筆者の意見 筆者の主張	△説明 事例(具体例・例)	△説明 事例(具体例・例)	話題の提示	

( ) は許容 △は減点

二 . . . . .理由。

三 ③三行目 . . . . .

(許容 ③一行目)

四 . . . . .

五 ・一つだけよりも二つ挙げた方が、

自分の意見がよく分かる

説得力がます

から。

から。

六 ・事実は意見のもと・根拠・わけ・説明になっている。

七 略